

マッチングファンドにおける計算例

<例 1>

① 全体事業計画（提案書【様式1】2 参照）

2年間で研究開発を行い、2年目に設備投資・販売開始。

	1年目	2年目	3年目	4年目
研究開発型	試作・製品化(P)	応用・生産技術開発等製品化(A)	—	—
設備投資	—	● (補助金活用予定)	—	—
販売開始	—	○	○	○

(単位: 千円)
計

		1年目	2年目	3年目	計
研究開発費	補助対象経費	20,000	40,000	0	60,000
	補助対象外経費(人件費等)	12,000	18,000	0	30,000
設備投資費		0	40,000	0	40,000
事業費総額 (事業化に要する経費)		32,000	98,000	0	130,000

② 補助金充当計画の策定

【要件1】グループが事業化に要する経費全体の1/2以内

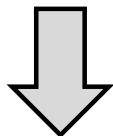
事業費総額 130,000 × 1/2 = **65,000** 千円

【要件2】補助対象経費かつ、コース毎に定められた資金支援規模の範囲内

・1年目: 試作・製品化コース(上限 20,000千円)

・2年目: 応用・生産技術開発等製品化コース(上限 50,000千円)

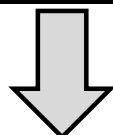
設備投資(補助対象経費の15%)



【要件2】を①全体事業計画に限度額・必要額でそのままあてはめると・・・

(単位: 千円)
計

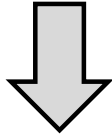
		1年目	2年目	3年目	計
研究費	補助対象経費	20,000	40,000	0	60,000
	補助対象外経費(人件費等)	12,000	18,000	0	30,000
設備投資	補助対象額(15%)	0	6,000	0	6,000
	自己負担(85%)	0	34,000	0	34,000
事業費総額		32,000	98,000	0	130,000
補助金充当額		20,000	46,000	0	66,000



【要件1】65,000千円以内 < 補助金充当額 66,000千円

このままの充当計画では、【要件1】を満たさない！

上記の補助金充当額から、1,000千円減額する必要があるため、
設備投資の補助金充当を1,000千円減額します。



上記を踏まえて、補助金充当額を修正すると・・・

		1年目	2年目	3年目	計
研究費	補助対象経費	20,000	40,000	0	60,000
	補助対象外経費(人件費等)	12,000	18,000	0	30,000
設備投資	補助金充当	0	5,000	0	5,000
	自己負担	0	35,000	0	35,000
事業費総額		32,000	98,000	0	130,000
補助金充当額		20,000	45,000	0	65,000

【要件1】 65,000千円以内 = 補助金充当額 65,000千円

→【要件1】【要件2】ともにクリア



今回の提案(1年目)では、補助対象経費 20,000千円を全額補助金充当出来ることとなります。2年目以降は、1年目の研究結果の評価によって決定しま

マッチングファンドにおける計算例

<例2>

① 全体事業計画（提案書【様式1】2 参照）

2年間で研究開発を行い、3年目に販売開始

	1年目	2年目	3年目	4年目
研究開発型	シーズ育成(S)	試作・製品化(P)	—	—
設備投資	—	—	—	—
販売開始	—	—	○	○

(単位:千円)

	1年目	2年目	3年目	計
研究開発費				
補助対象経費	5,000	25,000	0	30,000
補助対象外経費(人件費等)	4,000	9,000	0	13,000
設備投資費	0	0	0	0
事業費総額 (事業化に要する経費)	9,000	34,000	0	43,000

② 補助金充当計画の策定

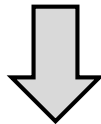
【要件1】グループが事業化に要する経費全体の1/2以内

事業費総額 43,000 × 1/2 = **21,500** 千円

【要件2】補助対象経費かつ、コース毎に定められた資金支援規模の範囲内

・1年目: シーズ育成コース(上限 3,000千円)

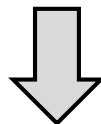
・2年目: 試作・製品化コース(上限 20,000千円)



【要件2】を①全体事業計画に限度額・必要額でそのままあてはめると...

(単位:千円)

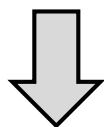
	1年目	2年目	3年目	計
研究費				
補助対象経費	5,000	25,000	0	30,000
補助対象外経費(人件費等)	4,000	9,000	0	13,000
設備投資				
補助対象額(15%)	0	0	0	0
自己負担(85%)	0	0	0	0
事業費総額	9,000	34,000	0	43,000
補助金充当額	3,000	20,000	0	23,000



【要件1】21,500千円以内 < 補助金充当額 23,000千円

このままの充当計画では、【要件1】を満たさない！

上記の補助金充当額から、1,500千円減額する必要があるため、
2年目の研究費から1,500千円を減額します。



上記を踏まえて、補助金充当額を修正すると・・・

		1年目	2年目	3年目	計
研究費	補助対象経費 (補助対象額)	3,000	18,500	0	21,500
	補助対象経費 (自己負担分)	2,000	6,500	0	8,500
	補助対象外経費 (人件費等)	4,000	9,000	0	13,000
設備投資	補助対象額 (15%)	0	0	0	0
	自己負担 (85%)	0	0	0	0
事業費総額		9,000	34,000	0	43,000
補助金充当額		3,000	18,500	0	21,500

【要件1】 21,500千円以内 = 補助金充当額 21,500千円

→【要件1】【要件2】ともにクリア



今回の提案(1年目)では、シーズ育成コースの限度額 3,000千円を全額補助金充当出来ることとなります。2年目以降は、1年目の研究結果の評価によって決定します。

マッチングファンドにおける計算例

<例3>

① 全体事業計画（提案書【様式1】2 参照）

1年目に研究開発と設備投資を行い、2年目に販売開始。

	1年目	2年目	3年目	4年目
研究開発型	試作・製品化(P)	—	—	—
設備投資	● (補助金活用予定)	—	—	—
販売開始	—	○	○	○

(単位:千円)
計

	1年目	2年目	3年目	計
研究開発費				
補助対象経費	20,000	0	0	20,000
補助対象外経費(人件費等)	6,000	0	0	6,000
設備投資費	10,000	0	0	10,000
事業費総額 (事業化に要する経費)	36,000	0	0	36,000

② 補助金充当計画の策定

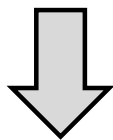
【要件1】グループが事業化に要する経費全体の1/2以内

事業費総額 36,000 × 1/2 = **18,000** 千円

【要件2】補助対象経費かつ、コース毎に定められた資金支援規模の範囲内

・1年目: 試作・製品化コース(上限 20,000千円)

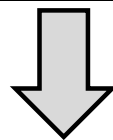
設備投資(補助対象経費の15%)



【要件2】を①全体事業計画に限度額・必要額でそのまま
あてはめると・・・

(単位:千円)
計

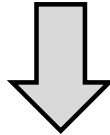
	1年目	2年目	3年目	計
研究費				
補助対象経費	20,000	0	0	20,000
補助対象外経費(人件費等)	6,000	0	0	6,000
設備投資				
補助対象額(15%)	1,500	0	0	1,500
自己負担(85%)	8,500	0	0	8,500
事業費総額	36,000	0	0	36,000
補助金充当額	21,500	0	0	21,500



【要件1】18,000千円以内 < 補助金充当額 21,500千円

このままの充当計画では、【要件1】を満たさない！

上記の補助金充当額から、3,500千円減額する必要があるため、
研究費から2,000千円を減額し、設備投資はすべて自己負担とします。



上記を踏まえて、補助金充当額を修正すると・・・

		1年目	2年目	3年目	計
研究費	補助対象経費 (補助対象額)	18,000	0	0	18,000
	補助対象経費 (自己負担分)	2,000	0	0	2,000
	補助対象外経費 (人件費等)	6,000	0	0	6,000
設備投資	補助対象額 (15%)	0	0	0	0
	自己負担 (85%)	10,000	0	0	10,000
事業費総額		36,000	0	0	36,000
補助金充当額		18,000	0	0	18,000

【要件1】18,000千円以内 = 補助金充当額 18,000千円

→【要件1】【要件2】ともにクリア



今回の提案(1年目)では、研究費の補助対象経費 20,000千円 のうち、18,000千円 を補助金充当出来ることになります。